



新幼稚園教育要領に備えて No2

来年度の新幼稚園教育要領の改訂に伴い、幼稚園、保育所、幼保連携子ども園の全ての幼児が、小学校に入学するまでの「幼児期が終わるまでに育てほしい10の姿」を強調していることを前号でお知らせしました。

そこで、これまで本園で大切にしてきた活動を「10の姿」に照らし合わせ、引き続き、続けた方がよい活動は何か、不足している活動は何か、また、社会の変化に対応して、取り入れるべき活動は何かについて話し合いを行いました。

この時期の年長の伝統的な活動、竹馬乗りを例に取りますと、まずは、竹馬に乗ること自体が、健やかな体を作ります。また、ただ乗るだけではなく、階段の昇り降り、カニ歩き、ジャンプなどの技に挑戦することは健康な心を作り、乗れるようになるまで、乗っては落ち、乗っては落ちることを繰り返す、粘り強く頑張り通すことは自立心に繋がります。さらに、竹馬に乗れる人が乗れない人を手伝う姿は、協同性につながり、竹馬乗り一つ取っても目指す姿が見えてきます。こうしてみると、本園の活動は、目指す10の姿と合致することが多く、指導方針に自信を持ったところです。

- ①健康な心と体……竹馬乗り、縄跳び
- ②自立心……竹馬乗り、
- ③協同性……運動会リレーの作戦会議
- ④道徳性・規範意識……2歳児のお世話
- ⑤社会生活との関わり……小学生との交流
- ⑥思考力の芽生え……カプラ、泥団子、染め物
- ⑦自然・生命尊重……昆虫採集、芋作り、米作り
- ⑧量や図形、文字……長さ比べ、どんぐりの数調べ
- ⑨言葉による伝え合い……劇遊び、年中・年長発表会
- ⑩豊かな感性と表現……図画、歌、合奏、陶芸

そして、自分の思いや考えを絵にしたり、言葉にしたりする表現活動が不十分ということが分かりました。読み聞かせの絵本を基に劇遊びや劇作りに挑戦していますが、豊かな感性は育てても、表現の面は十分ではありません。年少・年中・年長の年齢差を考えて育てたい縦糸としての表現活動、1年間を見通して育てたい横糸としての表現活動を織り交ぜ、各学年の年間の指導計画を見直し、新教育要領に対応した年間指導計画の作成が求められます。私たち教師の使命は、子どもたちに、「目指す10の姿」が身に付くように指導の手立てを工夫していくことです。保護者の皆様の変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願いいたします。

発表会に向けて猛練習



年中さんの練習の一コマです。今、発表会を目前に控え、年中さんも年長さんも、練習に熱が入っています。特に、年中さんは、発表会を明日に控えていますので、ここ数日の出来が本番を左右するとあって、遊戯室は、練習の熱で燃え上がっています。子どもたちは、声の大きさや動作、顔の向きなどの指導を受け、職員は、大道具や小道具の出し入れのタイミングなどの最終チェックしていました。

担任が、4月からこれまでに読み聞かせをした絵本の中から、子どもたちと話し合い、大好きな1冊を選びます。そして、担任は、一人ひとりの子どもの様子を予想しながら、脚本を作っています。担任にとっては、既製の台本を使わず場面を考えて言葉の一つひとつ選んでいますから、大変な仕事です。

しかし、担任にとっては、発表会を終えた子どもたちが達成感や有能感に満ちた顔を見た時、何物にも代えがたい財産を得、充実感を感じることでしょう。これは、担任にしか味わえないことです。

「らいおん組」に感謝

去る25日(土)に「らいおん組」で、春に咲く花を植えました。参加された方は少数でしたが、ロータリーの花植えも3年目を迎えますので、土の掘り起し、花植えも慣れたものです。OBの佐野さんの呼びかけで、数人のOBの方や卒園児も参加し、楽しく花の植え替えができました。小学生になった卒園児も逞しくなり、鍬を持った手が力強く、花壇の耕しも上手にできました。

子どもたちには美しいものを見たら美しいと感じる心を育てたいと思っています。

